

経済マンスリー [原油]

原油価格は 30 ドル割れ、12 年振りの安値に

原油価格は年初から急落している（第 1 図）。1 月 3 日にサウジアラビアがイランとの国交断絶を発表、4 日以降は中国株が急落する中、原油価格は下げが加速し、6 日の WTI（期近物）は 1 バレル＝33.97 ドルとなった。その後、対イラン経済制裁解除日が近いとの観測が高まったことを受けて、15 日の WTI は同 29.42 ドルと 2003 年 12 月以来の安値となり、リーマンショック後の最安値（一時 32.4 ドル）を下回った。16 日に対イラン制裁解除が発表されると、WTI は同 26 ドル台に値を下げている。

年初から原油価格が急落したのは、中国経済の先行き不安再燃と供給過剰懸念の強まりが同時期に生じたためである。供給過剰懸念の強まりには、イランに関する 2 つの要因が大きく影響している。

1 つ目はサウジアラビアとイランの情勢緊迫である。従来は、産油国の地政学リスクは供給途絶不安につながり原油価格の急騰を招いたが、今回は逆に原油価格は下落した。この背景には、①両国の対立によって石油輸出国機構（OPEC）協調減産の可能性がさらに低下したと認識されたこと、②実際の原油供給に影響が出ていないこと、③現時点では、両国の直接衝突の回避が広く見込まれていること、がある。

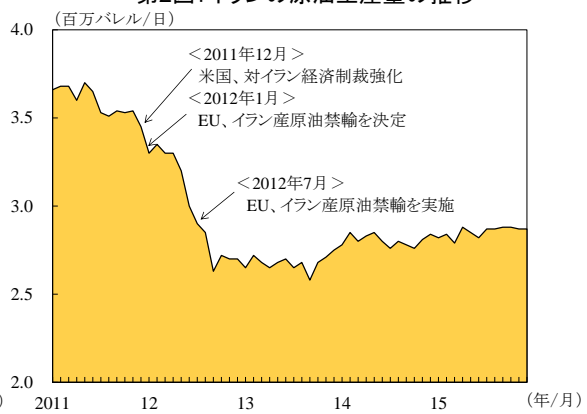
2 つ目は欧米による対イラン経済制裁の解除である。制裁解除後のイランの増産は既に市場に織り込まれてきたとみられるが、足元でも依然、原油価格の下押し圧力となっている。12 月のイランの産油量は日量 291 万バレルと、欧米による制裁決定前に比べて約 70 万バレル減少した水準にある（第 2 図）。政府はまず同 50 万バレル増産の意向だが、制裁決定前の水準回復を目指していると伝えられており、供給過剰への懸念がさらに強まっている。また、米国は昨年 12 月、40 年振りに原油輸出を解禁した。今月の欧州向けを始めとしてアジア向け輸出も予定されており、今後、中東産原油との価格競争に拍車をかける可能性がある。

第 1 図：原油価格（WTI 期近物）の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第 2 図：イランの原油生産量の推移



(資料) IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。